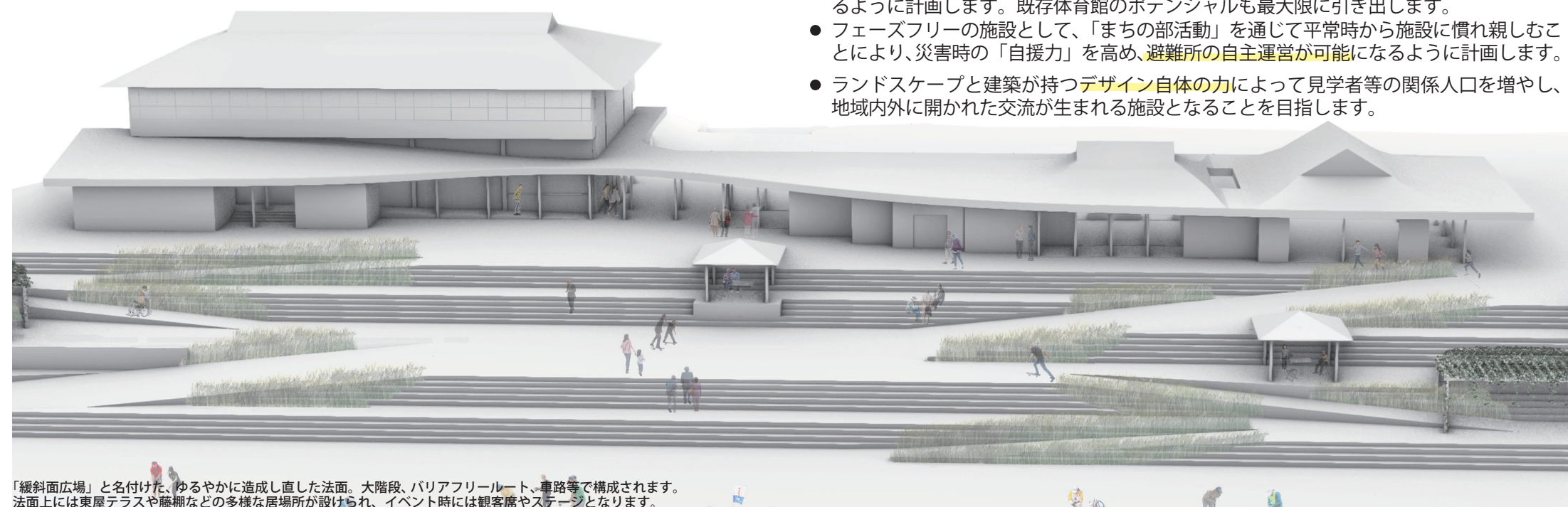


Taming the gap ~ 楽しくて、優しい、法面のならし方

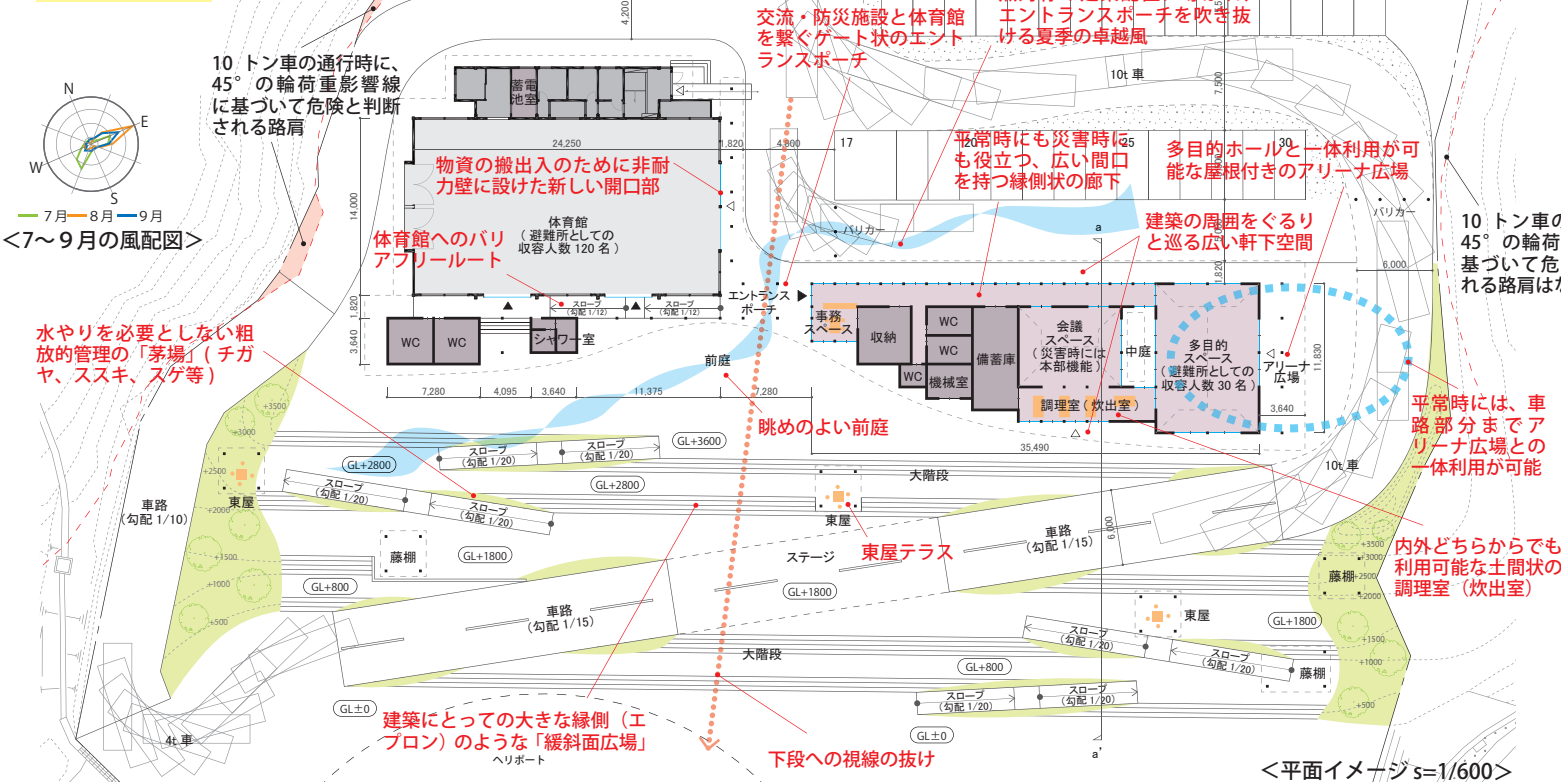


「緩斜面広場」と名付けた、ゆるやかに造成し直した法面。大階段、バリアフリールート、車路等で構成されます。法面上には東屋テラスや藤棚などの多様な居場所が設けられ、イベント時には観客席やステージとなります。

- ① 交流・防災施設の平時と有事の機能を考慮した平面計画
- ② 既存施設（体育館やグラウンド）との総合的なつながりを考慮した外構配置計画
- ④ ユニバーサルデザインに配慮した計画

豊かな半屋外空間を持つ交流・防災施設の建築計画

- ・新しい地形とランドスケープの中に置かれた「大きな東屋」をイメージして、開放的なデザインの建築とします。
- ・外周には、平常時にも災害時にも役立つ広い軒下空間を設けます。
- ・特に多目的スペースは周囲3方向に軒下空間を持ち、屋根付きの「アリーナ広場」へと連続して行きます。
- ・交流・防災施設、体育館の両方へのアプローチとなる屋根付き渡り廊下が、エントランスポーチをつくります



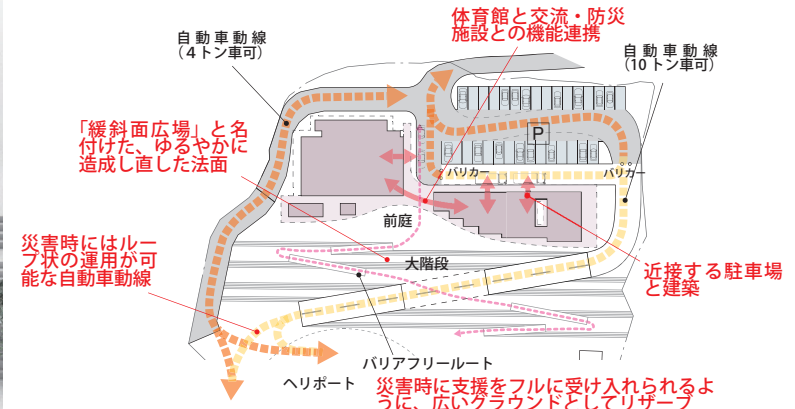
全体コンセプト

- ・既存の法面をゆるやかにならし(＝均し、馴らし、慣らし)て、人々が集まり楽しむ多様な居場所と、3.7mの段差を優しくつなぐ安全な動線をつくります。
- ・造成し直した新しい敷地全体を有効に活用して、災害時に「受援力」の高い避難所となるように計画します。既存体育館のポテンシャルも最大限に引き出します。
- ・フェーズフリーの施設として、「まちの部活動」を通じて平常時から施設に慣れ親しむことにより、災害時の「自援力」を高め、避難所の自主運営が可能になるように計画します。
- ・ランドスケープと建築が持つデザイン自体の力によって見学者等の関係人口を増やし、地域内外に開かれた交流が生まれる施設となることを目指します。

- ① 交流・防災施設の平時と有事の機能を考慮した平面計画
- ② 既存施設（体育館やグラウンド）との総合的なつながりを考慮した外構配置計画

機能を最優先した合理的な配置計画

- ・建築と駐車場はアプローチしやすい上段に配置し、下段は災害時のためのリザーブ用地として確保します。
- ・交流・防災施設を体育館に隣接して配置し、円滑な機能連携を図ります。
- ・建築と駐車場を隣接して配置することにより、平常時、災害時共に車が寄りつきやすい計画とします。
- ・上段からアプローチすると、建築は法面と下段へのゲートハウスのように機能します。
- ・下段から法面を見上げると、上段の肩に建つ建築が効果的なアイストップとなります。

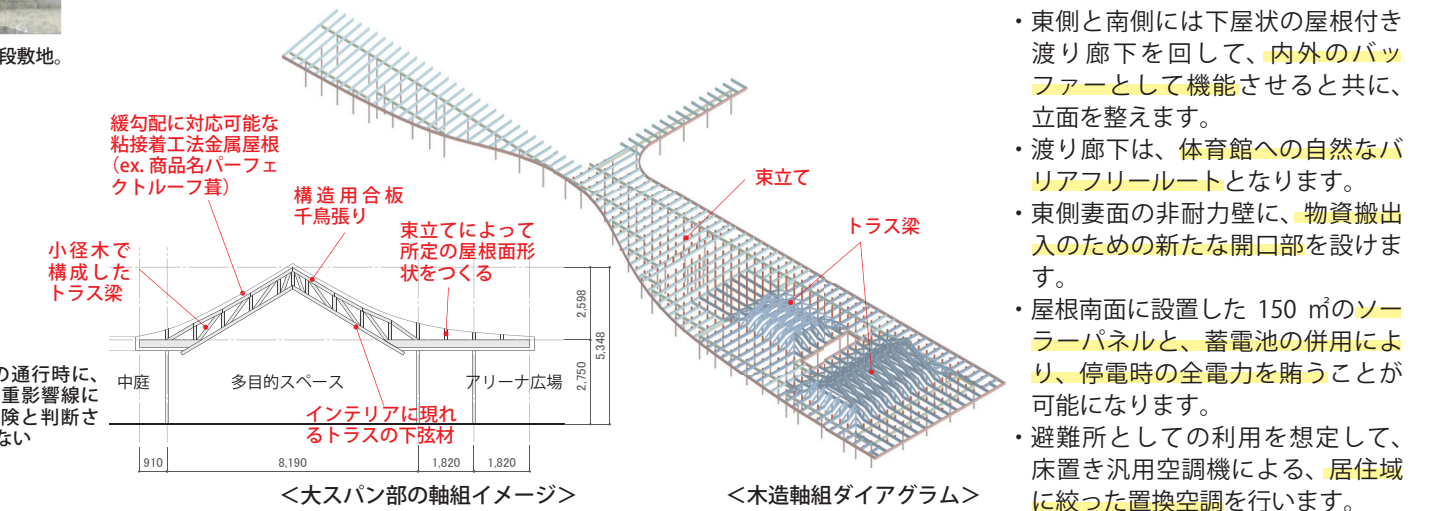


土木と建築のマリアージュ

- ③ 県産木材の活用 に配慮した計画
- ⑤ 環境負荷・省エネ・コストを考慮した計画

シンプルで美しい構造計画

- ・県産の小径木を用い、在来の木造技術で建設可能なシンプルな架構を採用することにより、短い工期に無理なく対応すると共に、コストを抑制します。
- ・天井のインテリアデザインとして、屋根架構の一部を露わしとします。



- ② 既存施設（体育館やグラウンド）との総合的なつながりを考慮した外構配置計画
- ④ ユニバーサルデザインに配慮した計画
- ⑤ 環境負荷・省エネ・コストを考慮した計画

既存体育館のポテンシャルを引き出す改修計画

- ・東側と南側には下屋状の屋根付き渡り廊下を回して、内外のバッファードとして機能させると共に、立面を整えます。
- ・渡り廊下は、体育館への自然なバリアフリールートとなります。
- ・東側妻面の非耐力壁に、物資搬入のための新たな開口部を設けます。
- ・屋根南面に設置した 150 m²のソーラーパネルと、蓄電池の併用により、停電時の全電力を賄うことが可能になります。
- ・避難所としての利用を想定して、床置き汎用空調機による、居住域に絞った置換空調を行います。



＜南立面イメージ＞

「普段使い」のきっかけをつくる 「まちの部活動」と防災教育プログラム

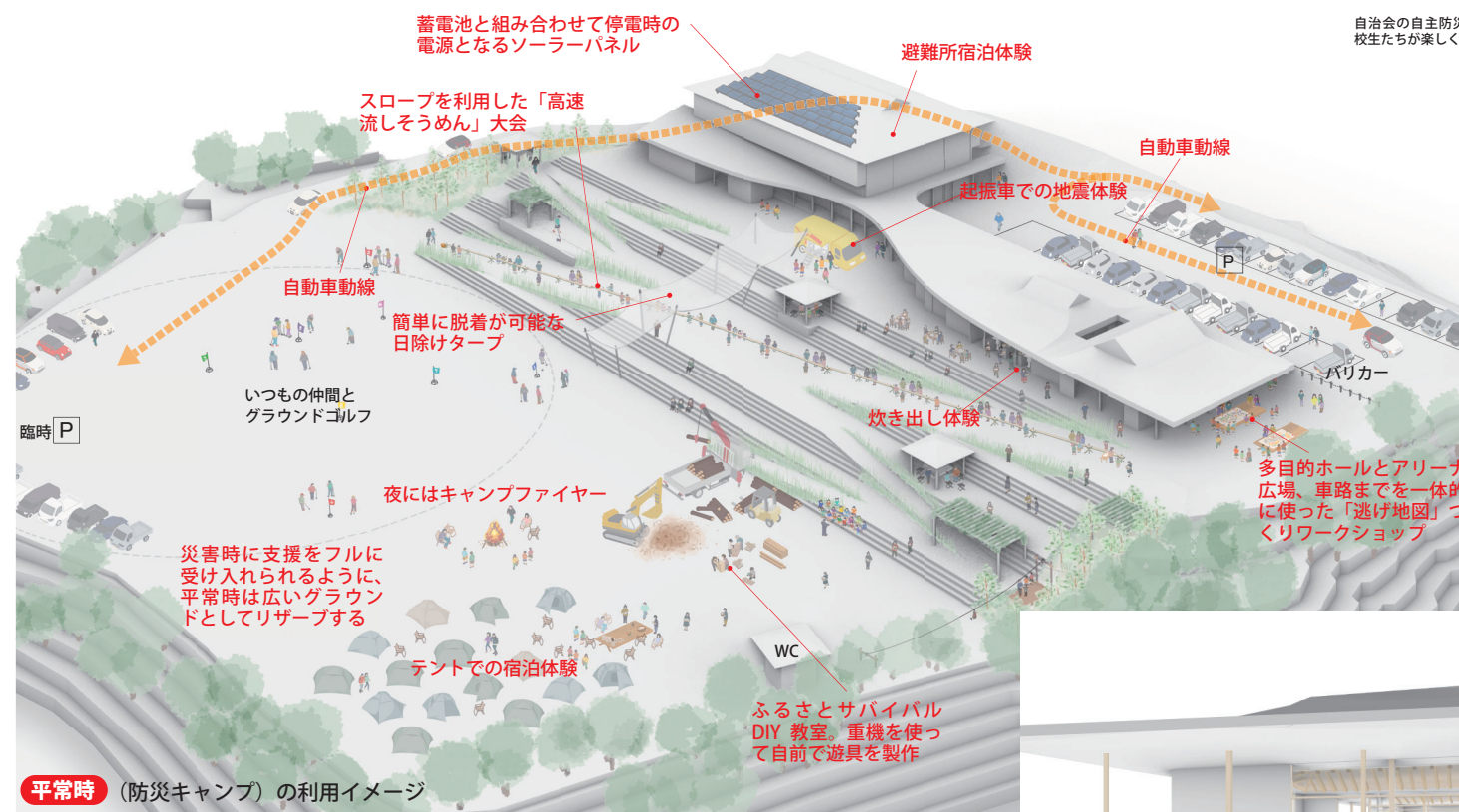
- ・義務感や責任感に基づく自治会といった枠組みではなく、個人の興味関心により参加する「まちの部活動」を育成し、コミュニティの再生に繋がります。
- ・施設内のあちこちに様々なまちの部活動が同居している状態を目指します。
- ・まちの部活動が中心となって、災害時をシミュレーションした防災キャンプを定期的に開催することにより、楽しみながら防災について学ぶことが可能になります。
- ・まちの部活動や防災キャンプを通じて施設に慣れ親しみ、また避難経路について熟知することにより、災害時に円滑な避難が行えるようになります。
- ・さらには、まちの部活動や NPO 法人等を主体とする指定管理によって施設を一般キャンプ場として運営することにより、「普段使い」のフェーズフリー防災拠点として、災害時により円滑に避難所に移行することが可能になると考えられます。



防災キャンプのお昼ご飯。スロープを利用した「高速流しそうめん」大会。



防災キャンプの夜。

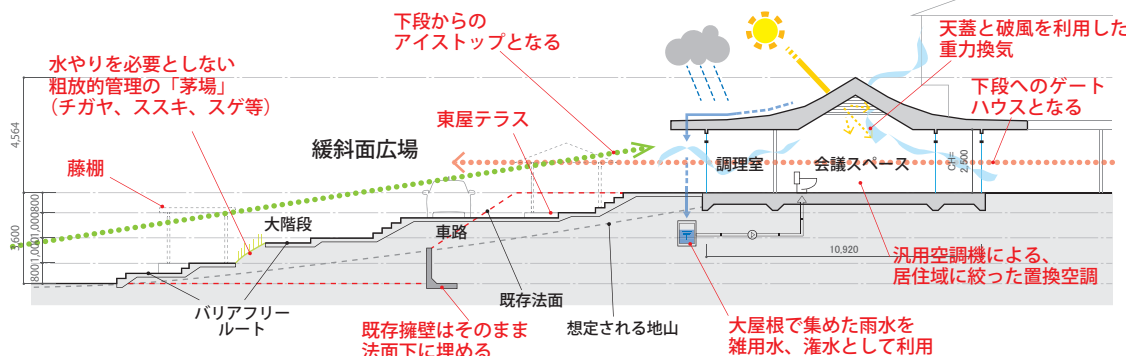


平常時（防災キャンプ）の利用イメージ

- ② 既存施設（体育館やグラウンド）との総合的なつながりを考慮した外構配置計画
- ④ ユニバーサルデザインに配慮した計画
- ⑤ 環境負荷・省エネ・コストを考慮した計画

楽しくて、優しい、法面のデザイン

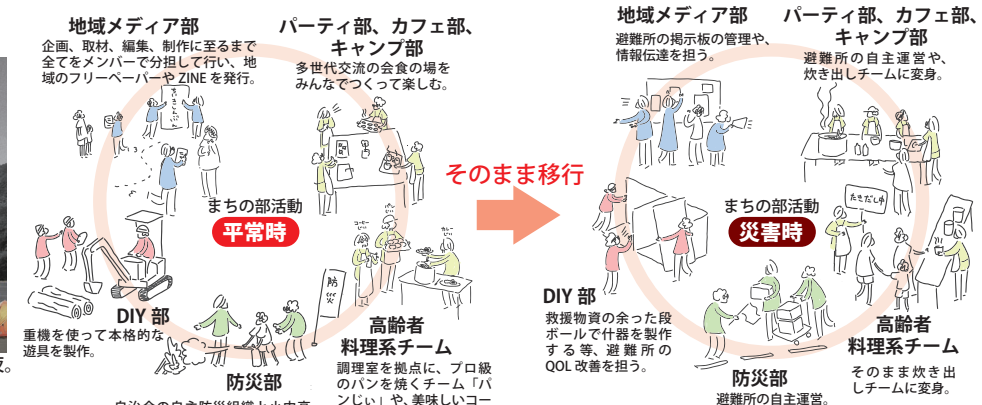
- ・上下の敷地を一体的に利用できるように、法面をゆるやかな大階段、バリアフリールート、車路等で構成します。
- ・平常時、メインの車路は一般車通行禁止とします。
- ・法面は単なる垂直動線ではなく、「緩斜面広場」として様々な居場所を提供する楽しい法面となるように計画します。
- ・「東屋テラス」と呼ぶ広い踊り場や、この場所がかつて学校であった記憶をつなぐ藤棚を設けます。
- ・造成工事の切り盛りをゼロとなるように設計することにより、工事費を抑制します。
- ・既存擁壁はそのまま法面下に埋めることにより、解体費用を抑制します。
- ・法面の大部分が RC 土間（抑えコンクリート）となることで、地震等の災害時にも上下敷地を繋ぐ安全な動線を確保することが可能になります。



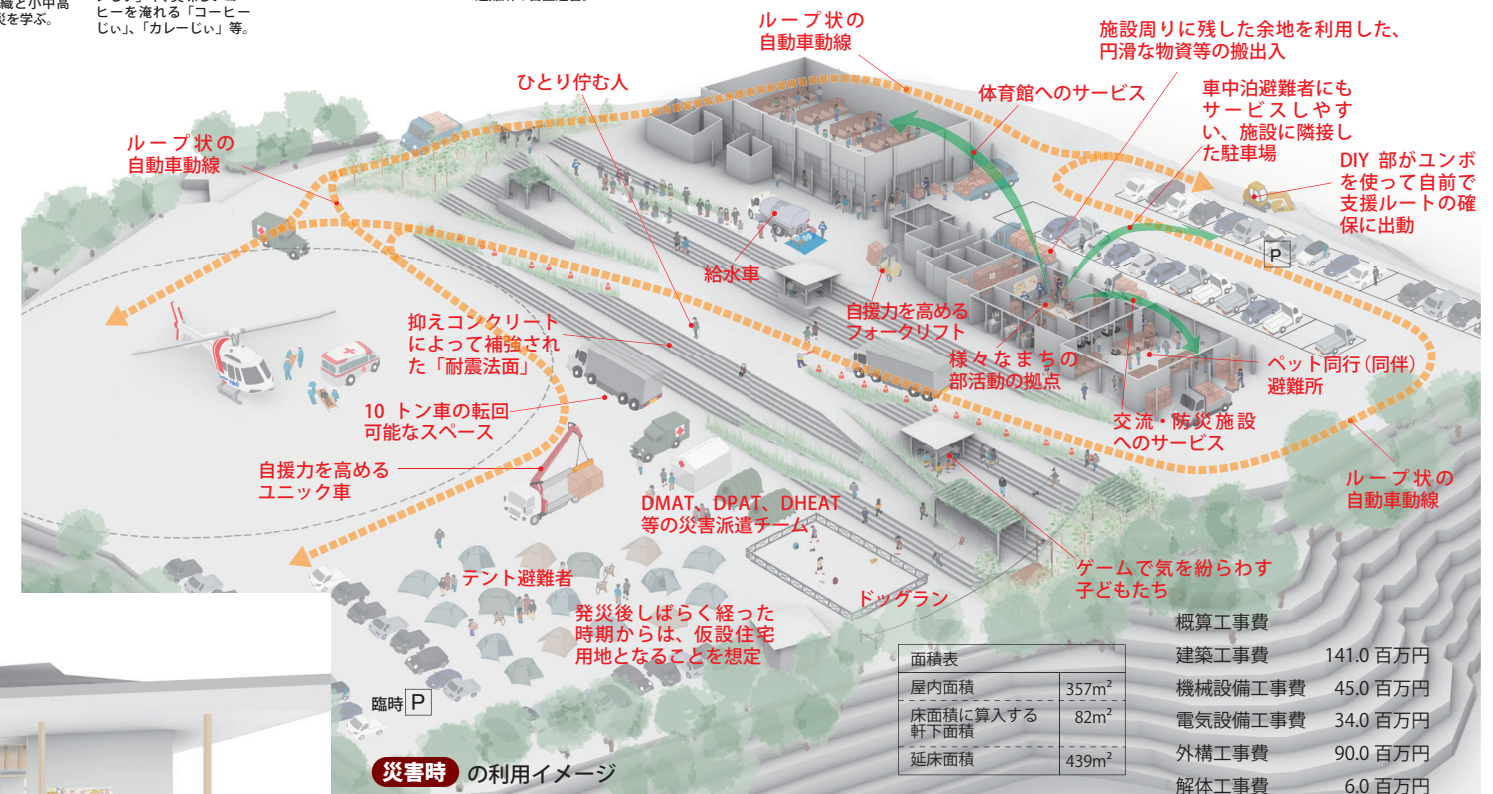
<a-a' 断面イメージ S=1:300> 建築にとって大きな縁側（エプロン）のような「緩斜面広場」

災害時の「自援力」を高める「まちの部活動」と 「受援力」を高める外構計画

- ・様々な部活動がそれぞれの特技を生かすことで、自主的な避難所運営が可能になります。
- ・自動車動線と駐車場を建築に隣接して配置することにより、物資等の搬入がしやすい計画とします。
- ・10 トン車が下段まで無理なく通行できる車路（幅員 6m）を新設します。
- ・既存車路（4 トン車対応）と合わせてループ状の自動車動線を形成することにより、円滑な災害支援活動が可能になります。



駐車場から交流・防災施設へボランティアや防災部による物資の搬入。



災害時の利用イメージ

面積表	
屋内面積	357m ²
床面積に算入する軒下面積	82m ²
延床面積	439m ²

概算工事費	
建築工事費	141.0 百万円
機械設備工事費	45.0 百万円
電気設備工事費	34.0 百万円
外構工事費	90.0 百万円
解体工事費	6.0 百万円
小計	316.0 百万円
合計（税込）	347.6 百万円



既存の法面をゆるやかに均して「緩斜面広場」をつくる。大階に加えて、バリアフリールート、車路等の動線や、東屋テラス、藤棚などの様々な居場所をつくります。

概算工事費（税込）347.6 百万円